

琉球新報 2015年5月31日



きき 紀々 「哲楽家」

「哲学は、もっと難しく、自分には縁のないものだと思っていました。こんなに身近だったなんて!」。先日ゲスト出演したラジオのパーソナリティーの方の驚きは、一つのうれしい手応えでした。

私が大学で東洋哲学を専攻したのは、今から20年前。まだ将来が見えなくて「この先どんな道を歩むことになっても役に立つ学問を」と選んだのに、周囲からは「社会で一番役立たない学問」とあきれられました。

哲学をこんなに笑顔で語る人を初めて見た!とも言われます。ロマンスグレーの男性、眉間にシワを寄せ、いつも難しいことを考えていて、聞いてもよく分からない……どうやら、そんなイメージがあるようです。

哲学を「哲楽」へ

東風

私がお伝えしたいのは、学問的な哲学ではなく、発想を広げて哲学することはこんなにも楽しく、生きることが楽になるという、ワクワク。だから、哲「楽」。気軽に着られるジーンズのように、毎日の中に活かせる発想力です。梅雨の時期、雨が降ると憂鬱という声も多いので、「雨」をお題に哲楽を一つ。「雨つてイヤよね。道は混むし洗濯物は乾かないし」と言う人に、晴れの日に会つと、どうでしょう? さぞゴキゲンと思いきや、「暑くつてイヤよね〜!」との答え(笑)。

「雨とは、〜である」の答えは、実はさまざま。その中で、この方は「イヤなもの」という解釈を選んでいるのです。多分、ご本人は無意識に。そんな「哲楽」を言葉で伝えるのは難しいので歌にしたところ、講演で1時間かかるところが3分で伝わることにビックリ! そして、シンガーソングライターになってしまいました(笑)。

天気も、過去と他人も変えられないけど、アシタ明日とアタシ(私)は変えられる。そのために「哲楽」の発想が力になれたらと願いつつ……あした、転機になあれ!

1975年那覇市生まれ。98年早稲田大学第一文学部哲学科東洋哲学専修卒業。企業のテーマ曲制作の依頼を機に、現在は哲楽と「うた」を取り入れた講演を行う。
2004年7月から12月まで「南風」執筆。

◆このコラムは「南風」執筆者OB・OGが担当します。